

平成 30 年度 第 2 回 尼崎 21 世紀の森づくり協議会 議事録

日時 平成 31 年 2 月 20 日 (水) 14 時 00 分～16 時 00 分

場所 兵庫県尼崎総合庁舎 別館 2 階大会議室

■会長挨拶

先日、京都で開催された『小規模ミュージアムネットワーク』に出席した。『小規模』の定義は、「常勤職員が 3 人以下」、「アルバイトスタッフも積極的に運営に参加する」など様々であるが、若い方が全国から 140 名程度集まり、皆さんすごいパワーであった。京都の国際会議で発表する予定であり、若い人たち力をもっと呼び込むべきであると感じた。

また、淡路景観園芸学校の修士論文発表会で感じたことだが、県や国の取組に対して学生に情報が入っていないことが問題と感じた。尼崎において県や国の取組もどのようになっているか把握しておく必要がある。環境省では塩類と漁獲量の関係を把握するために、瀬戸内海の 7 湾で水質管理をモデル的に進めている。いずれ、瀬戸内での水質と風景の関係について検討が進められるなど、尼崎の海も関連してくると思う。

また、関西広域連合における環境保全委員会の会議に出席し、カワウやサルなど府県をまたぐ環境問題や、リサイクルやペットボトルの問題などについて話を聞いてきた。

このような動きの中で、環境省が現在取り組んでいるグリーンインフラについて、生物多様性や生態系サービスなどの視点から兵庫県は以前から積極的にグリーンインフラに取り組んでいる。尼崎 21 世紀の森はグリーンインフラの拠点をつくられたものであり、ここで我々の行っていることが、社会を先導する取組になっているといえる。ぜひ、皆さん方といろいろなことを提案していきたいと思う。

■議事 (1) 「尼崎 21 世紀の森構想」の取組状況

○資料説明 (事務局)

資料 1 「尼崎 21 世紀の森構想」の取組状況をもとに、以下の内容について事務局より説明。

- 1) 尼崎の森中央緑地の整備状況について
- 2) 平成 30 年 9 月以降の主なイベントなど
- 3) 全国運河サミットの結果について
- 4) 工場緑化の顕彰制度の結果について
- 5) コミュニティサイクル社会実験について
- 6) 緑化技術検討会について
- 7) 茅葺き民家利活用検討会について
- 8) その他

○意見交換

委員 : イベントの参加者数が数千のものもあれば、数十人のものもある。その理由を教えてください。

事務局 : 尼崎の森中央緑地において、数千人の参加があるイベントは、自治会や学校など広く周知を行っている効果だと考える。また、スポーツの森の利用者を呼び込むことで、その人数の確保に取り組んでいる。

数十人の参加があるイベントは、生物多様性の森づくりを地道に進めていこうとする趣

旨のものが多く、現在イベントは、試行錯誤しながら取り組んでいる状況である。

- 会長 : 通常利用とイベント利用を分けて考える必要がある。通常利用は公園を通過することも含まれる。尼崎の森中央緑地は陸の先端に立地し、通過する利用はないことから、トラック運転手の利用など、ここでの通常利用を考える必要がある。
- 委員 : 尼崎の森中央緑地を利用する時のルールについて教えてほしい。大きなイベントで会場として借りる際、いつまでに予約すればよいのか。また、イベント時には通常利用の人が利用出来ない場合もあるのではないかと。その場合、どのようになされているのか。
- 事務局 : 現在、尼崎の森中央緑地の平日及び休日の利用者数については、日曜日が 1,300 人程度、土曜日が 700 人程度、平日が 300 人程度である。最近では、乳幼児を連れた親子の利用が多く、特に日曜日によく訪れる傾向があることを把握している。通常利用については、乳幼児を連れた親子の利用を進めていきたいと考える。
また、尼崎の森中央緑地の利用ルールについては、パークセンターに連絡が入った時点で仮押さえなどを行っていたが、これまで利用の予約が重なることはなかった。次第に利用者も増えていることから、数か月前から予約可能などのルール化を進めていく必要があると考える。
- 委員 : 旧神鋼棧橋の検討会には、ぜひ、メンバーとして参加させていただきたい。「全国運河サミット in 尼崎 2018」で紹介されたように、水辺に船が通行することが、運河を有する地域における発展の一番の起爆剤になる。例えば、棧橋に豪華客船が停泊し、大阪の I R 会場候補地を往復することで世界から訪れる人々に、工場地帯を森にした世界でも類をみない尼崎の森を PR したいと思う。
また、ロサンゼルスに行ったときレンタルで電動アシストのスクーターに乗ったが、事故の報告が上がっている。今回のコミュニティサイクル社会実験の中で、電動アシストのレンタルサイクルの事故の報告はあったか。
- 事務局 : 現在のところ事故の報告はない。
- 委員 : コミュニティサイクルは、便利で、値段もお手ごろということで利用者から評判が良く、利用率は徐々に上がっている状況である。ステーションが拡大すれば、さらに利用率も上がるものとする。ただ、告知がまだ十分行き届いていないと感じており、社会実験中に口コミも含め、皆様から PR してもらえれば、もっと利用率が上がると考えている。
- 会長 : レンタサイクル事業は、阪神間での拡大は可能か。神戸市は 10 数か所程度ステーションを増やしている。アメリカのボストン大都市圏では、すべてレンタルサイクルで移動できるようになっている。
- 委員 : レンタサイクルは阪神西宮、阪神甲子園で利用できるようになっている。尼崎での取組が徐々に、阪神間で広がりつつある状況である。

委員 : わかりやすいマップがあれば、レンタサイクルを利用しやすくなると思う。

■議事（2）エピソードによる評価の試行結果について

○資料説明（事務局）

資料 2 「エピソードによる評価の試行結果について」をもとに事務局より資料説明。

○意見交換

委員 : このエピソードによる評価の試行の趣旨を説明いただきたい。これはプロジェクトやイベントを評価しているが、今後、通常利用にどうつなげていくのか。私は地域の人たちと一緒にイベントを開催するのだが、地域の方は「尼崎らしさを感じる」という指標をどう扱ったらいいのかわからない。

また、実施主体と参加者の気持ちを比較したものなのか、尼崎の森中央緑地の使い方の評価なのかわかりづらい。尼崎の森中央緑地を利用する視点を重視しているのであれば、指標のことを丁寧に説明しないとわかりづらい。地域の方が尼崎の森中央緑地等を使ってけるように協力していきたいのでどのようにすればよいか教えてほしい。地域で行うイベントは、森の会議から発案されたイベントとはアクティビティの項目や評価指標が違ってくると思う。

事務局 : 今回の報告は、平成 29 年度に「尼崎 21 世紀の行動計画」の取組に関する質的評価を行う際、エピソードを集め、ツリー型の図で評価を行うことからスタートし、今年度、平成 30 年 9 月の第 1 回協議会からエピソードによる評価を試行してきた改良版という位置づけである。

現段階では、プロジェクトやイベントの評価の手法ではあるが、ご指摘の通り今後通常利用にどうアレンジしていくかが課題である。

また、主催者が記入する「期待シート」は、評価の目安を作る必要があることからイベント後に実施したものである。今後は企画段階から実施する必要があると考える。

なお、アクティビティの項目に関しては、主催者が自由に設定できる余地を 2 項目分確保している。イベントごとにアクティビティの項目や評価指標を毎回変えてしまうと、イベント間の比較ができなくなる。尼崎 21 世紀の森が目指すものとプロジェクトやイベントがどう関連しているか把握することも重要なポイントであると考えている。

事務局 : エピソードによる評価は、「尼崎 21 世紀の森づくり行動計画」を根拠としており、行政や自然環境保全及びまちづくりに関連する団体が行うプロジェクトやイベント、また地域や企業が行うプロジェクトやイベント等、すべてを評価できるものとなっている。そして、回答結果はすべての評価指標で満点である必要はなく、多少レーダーチャートの形に凸凹があっても、それがそのプロジェクトやイベントの特徴として捉えるものと考えている。構想エリアで取り組まれる様々なプロジェクトやイベントが実施された結果、全体として各評価指標がバランスよく評価されれば、良いものと考えている。

会長 : 今回の試行結果の結論は 2 点である。1 点はプロジェクトやイベントごとに主催者が感じて欲しいことと参加者が感じてほしいことを比較し、その評価、改善につなげたこと

である。もう 1 点は、尼崎 21 世紀の森づくり全体の方針とのかかわりも評価できると
いうことである。

委員 : 良くできた評価指標や手法であると思う。「期待シート」は主催者が参加者に感じて欲しい項目がわかり、全部の項目で満点を目指す必要がないものであり、非常に良い。実は、これまでのアンケートでは満点をめざさないといけないという気持ちになってしまい、評価が低いと主催者側は落ち込んだ気持ちになっていた。しかし、この手法では初めから狙う目標を主催者が明確にでき、これにより、各主催者が、冷静に自己評価を行うことにつながり、また、適切な改善点の提案をなされているように感じる。
またどのような人が回答したのか、つまり、参加者の属性や何に興味をもたれているのかわかれば、利用者のターゲットを絞ったプロジェクトやイベントへの対応が可能になるかもしれない。
このアンケートは良いと思うので別の場所でやってみたいと思う。

会長 : 県立公園で行われている通常のアンケートを、今回のエピソードによる評価手法に変えて実施してもいいのではないかと思う。

委員 : 質的評価等を行うための従来のアンケートは、依頼する側も、記入する側も、質問数が多い等、とても労力がかかるものである。この「森の感想シート」に示されているアクティビティの項目は◎○△×を使って答えやすいことや、シートのデザインもかわいらしく、参加者も記入したくなるものとなっている。
また、主催者側は「尼崎 21 世紀の森行動計画」の取組方針を常に意識しながらアクティビティの項目等を考えるようになることも良いことである。
さらに、主催者側も「満点ではないから」と落胆することなく、改善点を冷静かつ適切に考えられ、次回のイベントの評価のアップにもつながりそうである。この公園で行う通常のアンケートを、今回のエピソードによる評価手法に変えて実施してほしい。

会長 : エピソードによる評価の参考とした『本当に住んで幸せな街 ～全国「官能都市」ランキング～』を今一度読み直したが、ここで示されているアクティビティ「夜の酒場でハメを外した」等のように、さすが尼崎と思われるような楽しい項目等を次のステップとして検討いただければと思う。また、あわせて、幼稚園から小学校低学年までの子どもが記入できるシートも作成できればよいと思う。
あと「期待シート」に関して、記入者である 3～4 人程度の回答を平均して、点数化することは、学術的な論文などでは、あまり良い評価を得られない。それであれば合議制により主催者側で意思決定をしたものとして、感じて欲しいことを提示するほうが良いと考える。今後、社会的に通用する手法を検討してほしい。
さらに、「期待シート」がプロジェクトやイベントの主催者の評価、改善点になることに加え、公園などの作り方に落とし込めるように考えてほしい。主催者、参加者の各々の回答結果の平均値を比較することは面白くないケースもある。できるだけ「生の声」を使ってほしい。

■議事（3）「尼崎 21 世紀の森づくり行動計画(改訂版)」の中間年評価について

○資料説明（事務局）

資料 3 「「尼崎 21 世紀の森づくり行動計画(改訂版)」の中間年評価について」 をもとに事務局より資料説明。

○意見交換

- 委員 : 「尼崎 21 世紀の森づくり」は着実に進めて行く必要があると考えるが、茅葺民家は整備後どう利用していくか、また、どのように PR していくか課題であるとする。私は尼崎に住んでいることを誇りに思う「シビックプライド」の視点から取組む必要があると思う。ライオンズクラブのメンバーが、JR 尼崎周辺で壁のペンキの塗り直しを行ったことがある。これらは市民にも見目でわかりやすい成果となっている。市民の取組が、多くの人に注目されるようなことを行っていききたい。
- 今回のエピソード評価の試行結果から、全国運河サミットでは「非日常的」ではなくなっているとの評価がなされている。そこで今度は新しくは大人をターゲットにし、ロマンティックな雰囲気での夜の運河を楽しんでもらえるように運河クルージングを予定している。旧神鋼棧橋もソーラー付きの照明で夜にも行けるようにしたい。
- また、東京の事例であるが、丸の内では企業対抗歌合戦をやっているようである。住宅地と比較して大きな音を出せる尼崎の森中央緑地において、夕日を見ながら、工場の従業員が企業対抗歌合戦をやるような企画を森の会議などで考えていきたいと思う。
- 委員 : 未利用地が面的に残っている箇所があり、今後、尼崎 21 世紀の森づくり構想エリアの東西を行き来できるような土地利用の誘導を検討いただきたい。
- また、尼ロック、旧神鋼棧橋、はね橋など産業遺産は、一般の来訪者には珍しいものであることから、ぜひその活用を検討するなど、「尼崎 21 世紀の森づくり」として環境、産業、文化を活かせるものとしていきたいと考える。
- 委員 : 西宮で仕事をしていることから、西宮市民は尼崎スポーツの森をよく利用しており、認知度も高いことが分かった。しかし、尼崎の森中央緑地まで足が向いていないようである。西宮方面にももっと尼崎 21 世紀の森を PR していただければと感じている。
- 会長 : 尼崎 21 世紀の森は、素晴らしい取組をたくさん行っているのでぜひ続けていただきたい。先日、レインガーデン「雨庭」が、京都学園大学の先生により、テレビで紹介されていた。サンフランシスコやボストンでは、公園や道路の植栽帯では、水を貯留するこの「レインガーデン」の考え方を導入している。
- 尼崎 21 世紀の森もレインガーデンの考え方や生物多様性の森、ソーラー発電など総合的な視点で環境配慮の取組を進め、「SDGs（持続可能な開発目標）」に関連させて整理していただきたい。
- 茅葺民家自体が、環境配慮型の暮らしを行った原点を象徴するものである。牛、ニワトリなどの家畜の糞を活用して畑の野菜を育てるなど人と自然の共生の場であった。生物多様性の危機である里地里山などの手入れ不足による自然の質の低下に対する視点から、ライフスタイルを含めた環境と調和を意識し、民家周辺の利用について取り組んでいただきたい。

■議事（4）その他

○資料説明（事務局）

参考資料 1 低炭素杯 2019 をもとに事務局より資料説明。

■閉会

委員 : 尼崎 21 世紀の森づくりは、委員の皆様の協力を得て進めております。森構想の理念に基づき 100 年かけて森づくりに取組みますが、それに加え、その時、その時の社会情勢を踏まえて取り組んでいかなければならないと感じております。引き続きご協力の程、よろしく願いいたします。